



# ペンタックスの中判デジタルカメラ その開発試作機を実写レポート



# PENTAX 645 Digital (仮称)

ペンタックス  
0570-001313  
http://www.pentax.jp/  
田中希美男・写真/文

## PENTAX 645 Digitalの歴史

'05



### PLE 2005

デザインモック3台を展示。来場者にアンケートを実施。基本仕様として、以下の内容をアナウンス。  
●有効画素数1,800万画素  
●PENTAX 645AFマウントを採用  
●従来からのsmc PENTAX 645レンズが装着可能  
●撮像素子にはコダック社製の最新開発大型CCD (1800万画素)を搭載予定

'06



### PMA 2006

PIE 2005のアンケートを元にB案を採用。各社キープラッシュアップしたモックアップを展示。アナウンス内容はPIE 2005と同様。アンケートの結果、得票数はC案→A案→B案の順で、B案が一番少なかったが、そこに添えられたコメントに熱い意見が多かったのが印象だったという。

### Photokina 2006

アクリルケース内だが、モックではなく実動機を展示(有効画素数18Mピクセル)。この展示から「PENTAX」ロゴを正式ロゴに変更。さらに撮像素子を30Mピクセルクラスに変更して開発することをアナウンスした。

'07



### PMA2007

展示機はPhotokina 2006の展示機を6月にリファイン。モードダイヤル、程度感度のラバーなどを刷新して、大型アイコンを装着。標準レンズは2006年2月公開のレンズロードマップに載っていたsmc PENTAX-D FA645 55mm F2.8のモックアップ(初登場)。

645 Digitalの仕様を以下のように変更  
●撮像素子には31.6Mピクセルのコダック社製大型CCDを搭載予定  
●従来からのsmc PENTAX 645レンズが装着可能  
●SDメモリーカードおよびCFのダブルスロットを採用  
●発売時期未定

D FA645 55mm F2.8の仕様について  
●PENTAX 645 Digital (仮称)用の標準レンズとして新開発  
●各レンズの由率やコーティングをデジタル画像の特性に最適化  
●従来からの中判フィルム一眼レフカメラ「PENTAX 645」シリーズでも使用可能  
●発売時期未定  
●PENTAX 645 Digitalと同時発売予定

仮に「645 Digital」と名づけているが、このカメラは完全な試作機種である。開発試作機種ともよばれているもので、量産化に向けて数台が「手作り」されたもの。が、かなりの制限はあるものの動作し撮影が可能な手作り機種でもある。この手作り試作機を使ってさまざまな動作チェックや仕様検討を繰り返す。その後、ようやくボディ外装などのための金型が作られて量産試作に入る……はずだったのだが、その手作り試作機の段階で——つい数ヶ月前のことだが——ペンタックスから突然、「現在すすめている645 Digitalの開発は一時中断する」との発表があった。

話が前後してしまいが、この「645 Digital」とは、「ブローニーフィルムを使用するレンズ交換式中判カメラである「645N II」のデジタル版として開発されたものだ。ボディマウントはフィルムカメラと同じ645AFマウントを採用。そのため、既存の、豊富なラインナップを誇る645用交換レンズはAF/MFを問わずすべてが使用できるはずだった。

そもそも「645 Digital」の開発情報が発表されたのが、約3年前の2005年3月のPIEでのことである。ボディデザインの見異なるA案、B案、C案のモックアップモデル3機種が展示され、来場者に「どのデザインがいいか」とアンケートを実施した。と同時に、撮像素子にはコダック製の最新開発1800万画素CCDを使用するといったおおよそのスペックも発表した。その1年後の2006年春のPMA (アメリカ)で、「PIEでのアンケートを参考にしB案のモデルを採用する」との発表を行った。アンケートの得票数では「C案→A案→B案」の順であったが、その中でB案に添えられたコメントがもっとも「熱い」ものが多かったようだ。同じ2006年秋にドイツで開かれたフォトキナでは実際に645 Digital (18Mピクセル機種)を展示し、撮像素子は「18Mピクセルから約30Mピクセルのものに変更する予定」との発表も行った。

こうして「着々と」645 Digitalの開発が進み、翌年の2007年春には、ほぼ現行の

開発試作機種に近いリファインされたモデルが発表展示された。その発表では、撮像素子にはコダック製の31.6MピクセルのCCDを採用すること(撮像素子サイズは未発表)、記録メディアはSDとCFのデュアルスロット式にする、液晶モニターには3.0型を使用するなどのほか、標準レンズとして「D FA645 55mm F2.8」の開発発表も行った。さらに、PIE会場のペンタックスブースではその645 Digital試作機を使って実際にデモンストレーション撮影も行い、背面液晶画面に撮影画像を表示させて見せるなどもやった。それを見て誰もが「もうすぐ発売」と期待を膨らませていたところでの「開発の一時中断」の発表だった。

結果的には「幻のカメラ」となるだろうが、その645 Digitalの開発試作機を特別に貸してもらえることになった。そしてペンタックスから、条件付きながら「実写してもらい」と許可も得た。ただし「まだまだ試作段階のカメラです。とくに画質については完成度としては10%から20%程度。その画像を見て決して645 Digitalの実力の判断しないでほしい」とクギをさされた。

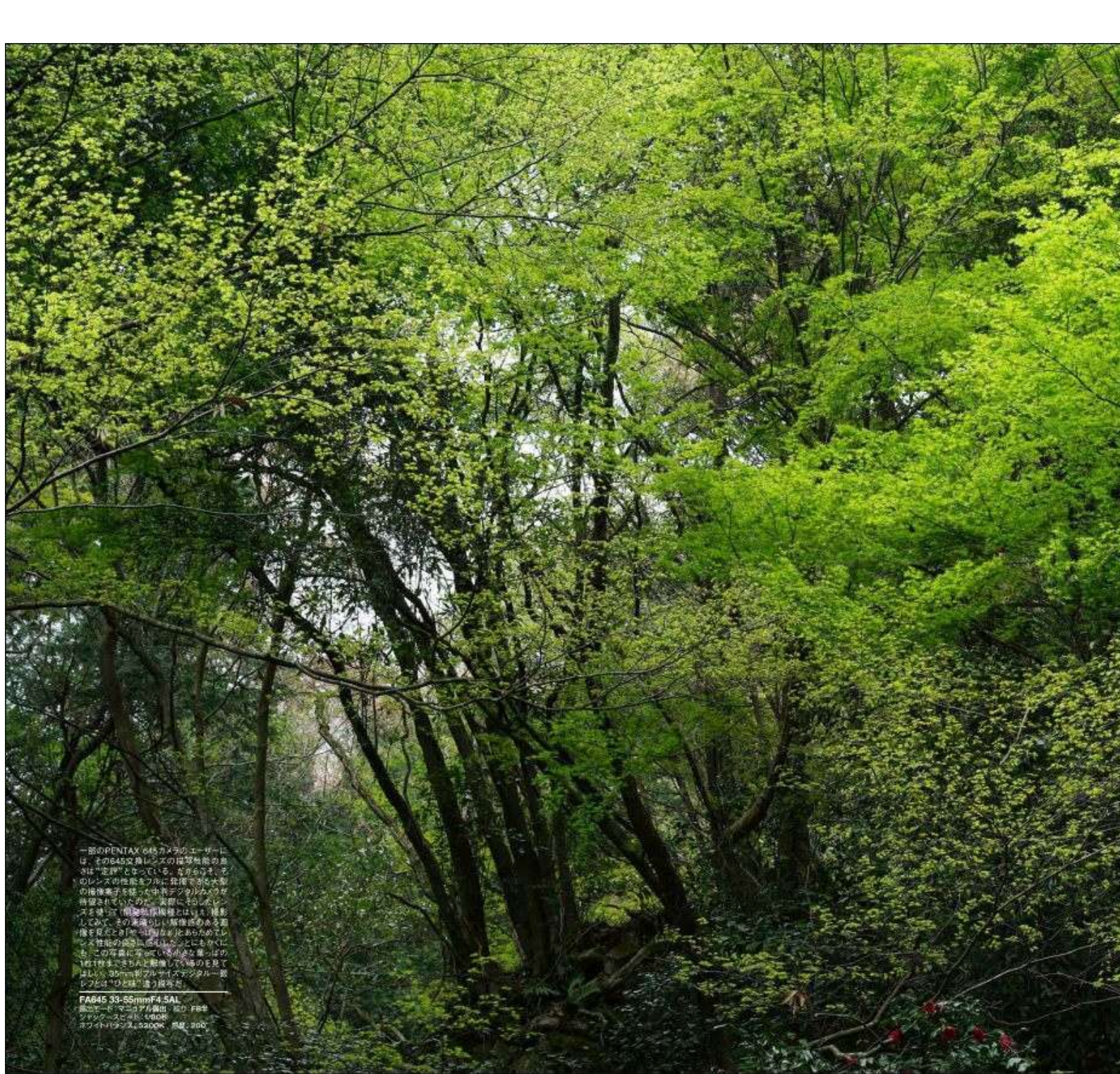
実写してみて驚いたことは、いくつかあった。まず1つはその圧倒的な解像感。桁違いの高解像描写である。約3200万画素の画像はといえば、6464×4848ピクセルもある。PCの20型モニターに「ピクセル等倍」したりすると撮影画像のほんの一部分しか表示できない。ちなみにRAWファイルの画像はペンタックス独自のPEFファイルと汎用のDNGファイルのどちらかの形式が選べるのだが、なんとPEFファイルが約30~32MB、DNGファイルともなるとワンカットで50MBを越えてしまう。

実際に試作機で撮影してみて感じたこと、そして残念に感じたことは「試作機でこんなに良く写るんならすぐにでも製品化できるのではないか、ここまで仕上げておきながら「中断」とはあまりにももったいない……」というものだった。そんなカメラを「まだまだ未完成、試作品レベル」と言い切るペンタックスに、あらためてそのカメラづくりの「認めたる実力」を強く感じた。



ボディがリファインされたフィルム645カメラのボディに搭載されている、フィルム645カメラの規格に準拠した設計の試作機。これは——僕はAF、MF撮像素子両方を使用しているデジタルカメラに代わったとは思えなくて、むしろ「なにが、現在の文藝的レゾナンスで使われているデジタルカメラに代わったとは思えなくて、むしろ「次の機種」までまた進んでほしい」という気持ちでこの試作機を撮影した。写真/文 田中希美男

FA645 80-160mm F4.5  
機内モード: マニュアル露光、SD、CF、PENTAX  
クロックスピード: 1/2000  
カラーバランス: 6000K-8000K、300



一部のPENTAX 645カメラのユーザーは、その645交換レンズの標準性能の素晴らしさを認めている。その中でも、そのレンズの性能を十分に発揮できるタイプの機種実装を認めた中でデジタルレンズが採用されていたのだ。実際にそのレンズを試して「何故標準機種とはいえず、撮影してみても、その素晴らしい解像感のある画像を見たと同時に、何となくとあらためて、その性能の高さに感銘した」ともかくにも、この写真に写っている立派な木の幹は、147枚まで立ち入り撮影して、その見ても、その素晴らしいデジタルカメラ一眼レンズの「0.01mm」まで撮り出す。

**FA645 35-55mm F4.5AL**  
銀のボディ、マニアル露出、絞り F8半  
シャッタースピード 1/4000sec  
ホワイトバランス 3200K 感度 300

**開発試作機から編集部が推察する主な仕様**

マウント+64GAFマウント  
 撮影素子+44.2×33.1mm  
 アスペクト比+4:3  
 感光ピッチ+約6.0μm  
 記録画素数+6464×4448ピクセル(31.8Mピクセル)  
 記録メディア+SD、CF(デュアルスロット)  
 ホワイトバランス+2段階、蛍光灯(白色、日光灯)、  
 蛍光灯(白色)、蛍光灯(暖白色)、蛍光灯(暖白色)、  
 ストリブ、マニュアル、色温度設定  
 液晶モニタ+3.0インチ  
 解像+100~1800  
 AFエリア+3軸  
 追従オート+分割、中央追従、スポット  
 露光補正+全30EV(+2EV~+12EVステップ)  
 フェーズモード+AF-S、AF-C、MF  
 露光モード+プログラムAE、シャッタースピード優先AE、  
 絞り優先AE、マニュアル、フルモード  
 シャッタースピード+1/4000秒~30秒  
 カウントアップ+4枚、9枚、18枚  
 情報表示+撮影情報、ヒストグラム、白飛び、黒つぶれ  
 露光(カラー)4段階、シャープネス、コントラスト  
 デジタルフィルタ+ソフト、標準、セピア  
 インターフェイス+USB2.0、ビデオ出力



上部右に情報表示パネルが用意されているがとて大きくて見やすい。中高年の方が多い中級愛好家への配慮なのだろう。



リア部を開閉することで撮像素子のクリーニングおよびローパスフィルターの巻戻(サービセンタ)による対応を考えたことが可能である。



メディアはSDおよびCFのデュアルスロット。メニュー画面にもおなじみ同時記録、個別記録などさまざまな組み合わせができる。バッテリーはリチウムイオン充電。

**画質比較(645 Digital vs. K20D)**

645 Digital (3160万画素)

K20D



ローパスフィルターはこの開発試作機ではビルトインされていた。ところが製品になったときはローパスフィルターなしを標準仕様にして、希望する人にオプションとしてサービセンタでビルトインに対応する「つもり」であったようだ。ローパスフィルターは色味も防ぐという役割を担うが、いままでもなく解像感という意味ではローパスフィルターがない方が断然高くなる。いわゆるコタツクのプロバックシリーズと同じ手法だ。

FA645 33-55mm F4.5  
 露出モード: マニュアル 絞り: F22 シャッタースピード: 1/60秒  
 ホワイトバランス: 5200K 感度: 200



十字キーには4つの機能が割り当てられている。



WBはプリセットおよび色温度設定が可能。



CF、SDにそれぞれ記録モードを設定可能。



RAWは純正のPEFと一般的なDNGをサポート。



前ダイヤルと後ダイヤルの設定も自由度が高い。



5回までの多重露出機能を装備する。



ミラーアップは専用レバーおよびシャッターの二択。



再生画面についてもKシリーズと共通だ。